


せいけん  
詩集

第五十七篇

作：近藤せいけん



「日本の四季」

天高く澄み もみじが カエテがもえるように紅葉し

季節の移り変わりを知り 物思いにふける秋

いつしか冷たい北風に変わり 深々と寒さが身に染む冬

一日一日と暖かさが 増し 陽光に力強さが増し

草木が芽吹く春

太陽がキラキラと輝き 暑くなり

ヒマワリが 咲き誇る 夏

季節は 四季は めぐる めぐる

日本の四季は美しい

日本人

心の中に四季を 持っている